

「誰か、一緒に、やれへん？」

NPO法人木育フォーラム 理事長 米地 德行



木育活動を始めたきっかけ

皆さん、森が一番少ない都道府県をご存知でしょうか？答えは大阪府。森林率が全国最低の47位です。大阪市にいたっては森林率が0パーセント。そんな大阪で木育活動をやっています。NPO法人木育フォーラムの米地といいます。私は大阪で祖父が創業した材木屋をやっています。材木屋をやっている私がなぜNPO法人をやっているのか？しかも、なぜ森が全然ない大阪市で木育活動をやっているのか？をお話させていただきたいと存じます。

私がこの業界に入ってから木材業界はどんどん悪くなっていくばかりでした。そこで木材需要が増えるにはどうすれば良いかを考え、たどり着いた方法が木の良さを広く知ってもらうということでした。木はもともと良いものだと思っています。また、日本は木の文化と言われるように、日本人のDNAには木が好きだという遺伝子が組み込まれているように思います。

木の良さを知ってもらおう、木のファンを増やそう、そうすることが遠回りのようであって木材需要を増やす近道じゃないかと思いましたが、そこで始めたのがアルブル木工教室という大人向けの木工教室です。木の良さを知ってもらうにはやはり木に触れてもらうことが一

番だと考えたからです。平成20年の春のことでした。

木の良さを発信するといっても、出来たばかりの木工教室をなかなか知ってもらうことはできません。かといって、広告宣伝にかけるお金もない。どうやって知ってもらおうか？と思ったときに考えたのが社会貢献でした。

社会貢献として私たちは木育活動を始めました。地域の小学校へ行って木育の出前授業をやったのです。木育は「木材利用に関する教育活動」で、食育が食と健康を扱っているように、木育は木と環境、木を使うことが環境にとつてどうなのか？という環境教育です。ちょうど環境問題を新聞紙上でも散見するようになり始めた頃でした。

環境の勉強にもなつて、木工でものづくりも楽しめる、そして日常使うものを作ることが出来る。木育のワークショップはなかなか好評で、年々やらせてもらえる小学校が増えていきました。

すると、アルブル木工教室の生徒さんがボランティアで出前授業を手伝ってくださるようになってきました。生徒さんは木工教室に通うくらい木が好きでものづくりが好きな方ばかりです。木育活動はうつつけたったのかもしれません。

そして、ボランティア主体で活動していた木

育活動を組織にしようと特定非営利活動法人を立ち上げました。それがNPO法人木育フォーラムです。平成24年にNPO法人認可を得て、現在に至ります。

取組事例

そんな木育フォーラムの取組をご紹介します。

大阪市内のR保育所の園長先生から依頼がありました。園庭にはプラスチックや金属でできた遊具しかない。子どもたちには自然のものに触れてほしい、子どもたちが園庭で遊ぶためのテーブルとベンチを木で作ってほしいとのこと。

依頼を受けて考えました。単に、注文を受けたテーブルとベンチを作ることはできます。しかし、それだけでは予算もあることですし、大したもののは作れず、第一面白くない。どうせなら、子どもたちと一緒にテーブルとベンチを作りたいませんか？と提案したところ、子どもたちにも体験になりそうだし是非それでいきましょう！と提案を受け入れてくださり、3回の



園庭のクスノキを囲むテーブルを提案

ワークショップで作ることになりました。

1回目のワークショップでは、子どもたちを私たち木育フオーラムスタッフと保育園の先生方が手伝って作業しました。初めての木工体験に子どもたちはとても楽しそうにしていました。



ワークショップ1日目、先生と子どもたちで

すると、子どもたちが家で話題にしたからでしょう、2回目のワークショップでは保護者の皆さんが参加してくださいました。「フコギリ触るの中学の技術の授業以来やわあ。」との声も聞かれましたが、皆さん久しぶりのものづくりをとても楽しんでくれました。



ワークショップ2日目、保護者のみなさんが参加

そして3回目のワークショップ。今度は地域の大人たちが手伝いにと参加してくださいました。中には大工経験者もいらつしやいました。

話を聞きすると、保育園があるのはもちろん知っているし、地域で子育てをという考えも賛成だけど、いつどこに参加していいのかわ



ワークショップ3日目、地域のみなさんも協力

からない、きつかけがなかったとのこと。今回参加できてよかったと喜んでくださいました。

つまり、今回のワークショップ、木工というキーワードで地域が活性化されたんだと思います。ものづくりを通して新しいコミュニティが生まれたとも言えそうです。



完成!

この活動は次の年も継続して行われ、今年で4年目となります。大阪の子どもたちが大阪で生まれ育った木を使つてもものづくりをする。大阪府は森のない都会ですが、その大阪府で木が使われることによって、大阪の森の木が伐られ、間伐が行われることにより、森林が整備される。

日常使えるものを木で作ることによって、日常に木に触れる機会を増やし、日本の森に思いを馳せることのできる子どもたちが増えてくれたらと思います。

今後の展開

木から始まるものづくり、を中心に、日本の森林のことを知ってもらいたい、植える緑化も大切だけど、森のない都会では「使う緑化」、つまり木を使うことも森の整備や緑化につながるということを私たち木育フオーラムは木育活動を通して発信してきました。

それが今回のコロナ禍。出前授業はすべて中止となり、イベントはなくなり、私たちが主催

して行っている活動も自粛を余儀なくされている現状です。

しかし、あれができないこれができないと思ついても仕方ありません。この現状でもできること、そして将来につながることをやろうと考えています。

具体的には今まで自分たちのやつてきたワークショップのノウハウを動画やテキストにして、新しくサイトを立ち上げオンラインで発信していくことを考えています。

リアルなワークショップができないことは大変残念ですが、逆に考えると、このオンラインでワークショップのノウハウが広がれば、私たちが行かなくても全国どこでも木工ワークショップが開催されるつてことになり、私たちの目的である木育の普及促進にはそちらの方がいいのかもしれない。

そのノウハウ動画を集めるサイトの名前を「みんなのDIY」と名付ける予定です。DIYは本来の意味は「Do it yourself」、自分たちでやろうという意味です。私たちはそのDIYに「D(誰か)、I(一緒に)、Y(やれへん?)」とみんなが地域を盛り上げようという意味を込めました。Yは何故か大阪弁ですが…。

コロナ禍が早く収束することを祈るばかりですが、こんなときでも、こんなときだからこそ、こういう状況でもできることを精一杯やって、これからの展開にしていきたいと思つています。

みんなのDIYが完成した折には、ぜひ一度のぞいていただければ大変嬉しく思います。今後とも、よろしく願ひします。